

日本血栓止血学会誌投稿規定

2012年7月1日制定

2025年6月27日改定

機関誌「日本血栓止血学会誌（血栓止血誌）」

日本血栓止血学会誌（以下、本誌）は日本血栓止血学会（以下、本会）の機関誌として年6回発行し、血栓、止血およびこれらに関連する領域に関する論文およびその他を掲載する。年6回のうち1回は学術集会抄録集とする。本誌は会員相互の情報交換を目的とすると共に、本会の活動を広く発信することを目的とする。本誌は、すべての掲載論文を「CC BY-NC-SA 4.0 International」ライセンスのもとでオープンアクセスとして提供する。詳細はCreative Commonsのウェブサイトを参照すること。

1. 投稿資格

投稿論文の筆頭著者は本会の会員とする。なお、会員以外の者を共著者としてもよい。ただし、本会が原稿を依頼する場合はこの限りではない。

2. 著作権

本誌に掲載された記事等の著作権は本会に属する。

本会は、掲載論文を、クリエイティブ・コモンズ表示-非営利-継承（CC BY-NC-SA）ライセンスのもとで公開する。これにより第三者は、著者と出典を適切に明示する限り、非営利目的での複製・改変・再配布を行うことができるが、改変後の成果も同様のライセンスで共有されなければならない。

著者は、図表や一部内容の再利用などについて、出典を明記する限り、自身の著作物として再利用することができる。

3. 投稿論文の採択と掲載

血栓、止血及びこれらに関連する領域の学術論文（和文、英文）の投稿を受け、査読審査の上掲載する。論文は国の内外、言語を問わず、未発表のもの（抄録を除く）に限る。本誌が掲載する学術論文は、原著、症例報告、総説、トピックス、編集者への手紙、等である。

本会編集委員会（以下、編集委員会）は、投稿論文の内容に応じて査読者を決定・依頼し、査読報告に基づき掲載の可否、原稿修正の要否を決定する。著者は編集委員会から修正を求められた場合、原則として編集委員会が提示した期限内に修正原稿を提出する。原稿を著者に返送した後3か月経過しても再提出のない場合、その論文は取り下げられたものとみなす。論文の採否は編集委員会により決定する。

4. 倫理規定及び関連法規の遵守

投稿者・著者及び共著者は、日本学術会議が声明を發した「声明：科学者の行動規範について」において説明している科学者の行動規範も遵守すること。

人を対象とした研究においては、ヘルシンキ宣言（世界医師会総会）、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省）、遺伝子治療等臨床研究に関する指針（厚生労働省）、再生医療等安全性確保法、臨床研究法等を遵守すること。

動物を扱った研究においては、実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（環境省）、研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（文部科学省）、動物実験の適正な実施に向けたガイドライン（日本学術会議）、動物愛護管理法等に基づいた各施設のガイドラインに則って行われたものでなければならない。

この宣言における事実誤認または虚偽や過失により掲載された論文に対する異議申し立て等があった場合、本会および編集委員会は一切の責任を負わない。

5. 不正論文の取り扱い

不正論文とは、査読審査によって、下記1) から4) に示す、盗用・盗作、重複投稿、類似投稿、あるいは捏造・改竄の事実が確定した論文を指す。既に掲載された論文に関してもこの事実が実証された場合は、不正論文とする。不正論文と認められた場合は、別に定める「不正論文取り扱い規約」に則る。

1) 盗用・盗作

既出版の論文から無断で研究データや文章あるいは図表を写し取り論文を著述した場合をいう。

2) 重複投稿

論文の主要な部分が、他誌あるいは本誌に投稿中、または出版・公表された論文内容と同一であり、引用の記載がないものをいう。論文発表の言語の種類を問わない。ただし、既掲載誌の編集委員会が本誌への掲載を書面により承諾し、本誌編集委員会が掲載を了承した場合は重複投稿としない。

3) 類似投稿

他誌あるいは本誌に投稿中、または出版・公表された論文内容に、異なる解釈をして新たに作成した論文、あるいは新たなデータを追加して新たに作成した論文をいう。論文発表の言語の種類を問わない。ただし、他誌あるいは本誌に投稿中、あるいは出版・公表された論文を引用した上で、同一対象（症例等）に対して新たな仮説を立て、別の手法で解析し新たな結論を導いた論文は類似投稿としない。ただし、その掲載の諾否は編集委員会で議決する。

4) 捏造・改竄

研究結果や観察内容を恣意的に書き換えたり、事実に基づかないで作上げられたりして作成された論文等が該当する。

6. 論文掲載における著者、共著者の COI 開示に関する申し合わせ

「日本血栓血学会 (JSTH) における COI (利益相反) に関する指針」を参照し、「日本血栓止血学会 (JSTH) における COI (利益相反) に関する指針施行細則」第 2 号: 本学会誌などでの発表」の規定に基づき「出版物執筆者の COI 自己申告書」(様式 2) にて COI 申告開示をしなければならない。開示された COI は論文末尾、References の直前の場所に印刷される。開示すべき COI がない場合、「著者全員の利益相反 (COI) の開示: 本論文発表内容に関連して開示すべき企業等との利益相反なし。」の文言が入る。開示すべき COI がある場合、該当する著者毎に、該当する項目と COI 状態にある企業、組織、あるいは団体名等の名称を記載し、著者全員の COI を開示する。

7. 投稿方法

原稿は Editorial Manager システム (URL: <https://www.editorialmanager.com/jjsth/>) で受け付ける。投稿にあたっては Editorial Manager 著者マニュアルを参照すること。インターネット利用等に困難のある場合事務局に連絡すること。

投稿にあたっては、エディトリアルマネージャー新規投稿画面内「追加投稿情報」の入力、もしくは本誌各号挿入の「日本血栓止血学会への論文投稿に関する同意書」に必要項目を記入して事務局宛送付すること。

投稿者は希望があれば、査読者として 5 人まで列挙することができるが、実際の査読者は編集委員が決定する。

8. 執筆要領

1) 論文等のおおむねの長さは下記の通りとする。写真・図・表は 1 個 800 字に換算する。英文での投稿も可とし、その長さは相当する和文論文等の長さに準ずる。

(参考) 約 1,600 字で組上り 1 ページにはほぼ相当する。

原著論文: 本文・文献・写真・図・表を含めて 11,000 字程度

写真・図・表 計 10 個以内 キーワード(英) 5 個以内

症例報告: 本文・文献・写真・図・表を含めて 8,000 字程度

写真・図・表 計 7 個以内 キーワード(英) 5 個以内

速報論文: 本文・文献・写真・図・表を含めて 6,400 字程度

写真・図・表 計 3 個以内 キーワード(英) 5 個以内

総説論文: 本文・文献・写真・図・表を含めて 11,000 字程度

写真・図・表 計 10 個以内 キーワード(英) 5 個以内

トピックス: 本文・文献・写真・図・表を含めて 3,200 字程度

写真・図・表 計 3 個以内 キーワード(英) 5 個以内

診断・治療・技術講座: 本文・文献・写真・図・表を含めて 6,400 字程度

写真・図・表 計7個以内 キーワード(英) 5個以内

編集者への手紙：本文・文献・写真・図・表を含めて3,200字程度

研究四方山話：本文・写真・図・表を含めて3,200字程度

研究室NOW：本文・写真・図・表を含めて3,200字程度

私達の最新論文：本文・写真・図・表を含めて3,200字程度

2) 原稿は和文、英文ともに、A4版に横書きとする。

3) 原稿の1枚目(表紙)には以下の事項を記載する。

- ・表題(日本語・英語)
- ・著者名(日本語・英語)
- ・著者所属機関名、住所、連絡先(電話、メールアドレス)(日本語・英語)

4) 原著論文および症例報告では、原稿の2枚目以下に、①和文抄録(400字以内)、②英文抄録(200語以内)、③5個以内の英語 keywords、④緒言、⑤研究対象、材料および方法、⑥結果(成績)、⑦考察、⑧謝辞、⑨文献、⑩図の説明文、の順に記述し、そのつどページを更新する。

5) 血栓止血領域の学術用語に関しては血栓止血学会用語集に準拠し、専門用語以外は常用漢字、現代かなづかい(ひらがな)を用い、平易かつ明瞭に記述し、句読点は正確に書く。

6) 人名、薬品名などの外国語名は原語のまま用いる。ただし、日本語化しているものはカタカナとする(例：アスピリン、トロンビンなど)。薬品名は原則として一般名を使用し、商品名の記載が必要ならば、最初に一般名が書かれたときに、括弧内に登録商標表示Rまたは®で示す。

7) 数字は算用数字を用い、度量衡単位はmm、L、mL、 μ L、g、mg、 μ gなどとする。

8) 図は本誌中で十分識別可能な線および文字を使用すること。原著論文および症例報告では図は英文で作成すること。

9) 顕微鏡写真にはスケールを示すバーを挿入すること。印刷物やプリント写真からのスキヤニングを必要とするものはその旨を明記すること。大きさは21cm×14cmを限度とする。カラー写真の掲載も可である。表・図・画像は別ファイルで作成し、解像度300dpi以上のJPEG、TIFF、PDF、EPSファイル、もしくはPowerPointファイルのいずれかのデータを添付すること。

10) 電子版は無料でカラー掲載され、冊子体および別刷は原則モノクロ印刷される。カラー印刷を希望する場合は実費を負担すること。

9. 文献の記載

1) 文献の記載順序は本文中での引用順とする。本文中の引用箇所には肩番号を付け、照合する。

2) 文献の記載は下記により統一する。

[雑誌] 著者氏名 (3名まで記載し、それ以降は「, 他」「, et al.」を用いて省略): 題名. 雑誌名 巻: 始ページ-終ページ, 発行年 (西暦).

(例) 竹谷英之, 白幡聡, 酒井道生, 他: 日本人血友病患者による身体活動阻害要因評価スケール (Barriers to Being Active Quiz: BBAQ-21) の言語的妥当性の検証. 血栓止血誌 34: 381-393, 2023.

(例) Kubo M, Konko K, Kinoshita E, et al.: A novel automated chemiluminescent enzyme immunoassay for ADAMTS-13 activity enables accompanying measurements of the inhibitory autoantibodies. J Thromb Haemost 23: 957-967, 2025.

[書籍 (単著)] 著者氏名: 書名, 発行地, 出版社名, 発行年 (西暦).

(例) 朝倉英策: しみじみわかる血栓止血 Vol.1 DIC・血液凝固検査編, 東京, 中外医学社, 2014.

[書籍 (共著)] 著者氏名: 題名, (英文のみ in) 編者名, 書名. 発行地, 出版社名, 発行年 (西暦), 始ページ-終ページ.

(例) 森下英理子: 血栓性素因の検査の進め方, 朝倉英策編集, 臨床に直結する血栓止血学 改訂3版. 東京, 中外医学社, 2024, 17-22.

(例) Scully M, Kavanagh D: Thrombotic Microangiopathies, in Key NS, Makris M, Lillicrap D (eds): Practical Hemostasis and Thrombosis, 3rd Edition. Hoboken, Wiley-Blackwell, 2016, 183-194.

3) 雑誌名は Index Medicus に採用されている略号を用い、類似の誌名がある場合には発行地を併記する。

4) プレプリントサーバーに収載されている論文 (査読前論文) については文献に含めず、本文の引用箇所に doi 番号 (または URL) を記載すること。

(例) (Khismatullin RR, et al. 2025. doi: 10.1101/2025.03.30.646236)

10. 別刷および掲載費用

別刷を希望する際は、50部単位で著者校正時に申し込むこと。その際実費を申し受ける。

掲載基本料金は速報論文および速報扱いを除き無料とする。電子版はオープンアクセス (CC BY-NC-SA) で無料公開される。掲載に際し、オープンアクセス出版費用 (APC) 等の追

加費用は発生しない。ただし、冊子体のカラー印刷や画像加工を要した場合は著者の実費負担とする。

速報論文および速報扱いを希望する場合は特別審査料 10,000 円を下記特別審査料振込先に振り込むこと。特別審査料は、論文が不採用になっても返却しない。

特別審査料振込先：口座番号 00150-6-766029 ゆうちょ銀行 日本血栓止血学会編集事務局 (会費納入口座とは別なので注意)

1 1. 規定の改廃

本規定の改訂・改定・廃止は、編集委員会で審議の上、理事会の承認を受けて決定される。

付則

本規定は平成 24 年 7 月 1 日より施行する。